

平成二十九年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

注意事項

- 一、 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、 解答は、必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面に書くこと。
- 三、 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないように注意すること。
- 四、 解答時間は、一二〇分である。
- 五、 縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

(福井憲彦『鏡としての歴史・現在へのメッセージを読む』日本エディタースクール出版部、一九九〇年、二〇二―二一ページ)

問一 本文の論旨を四〇〇字以内でまとめなさい。

問二 「時間のなかに生きること」と「時間のなかに生かされてしまう」ことの違いについて、本文を踏まえてあなたの考えを六〇〇字以内で述べなさい。

平成二十九年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

出題の意図

国際言語文化学科・琉球アジア文化専攻は、琉球・沖縄および日本・アジアの諸地域の言語・文学・歴史・民俗への理解を深めることを目指している。したがって、この専攻の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探究心が要求される。問題文は、われわれが「あたりまえ」と思っている「時間」をめぐる感覚や、生き方が、けっして「あたりまえ」ではないことについて、ヨーロッパにおける時間意識の変遷などに触れつつ述べた文章である。本出題の意図は、日常生活において「あたりまえ」と思っている位置から身をずらして自分自身をながめることの重要性について述べた文章を正確に読み取り、論旨を的確に把握できるかを問うことにある。加えて、本文の内容を踏まえたうえで、「時間のなかに生きること」と「時間のなかに生かされてしまう」ことの違いについての考えを論述させることで、「あたりまえ」とおもっている時間意識がどのような歴史的経緯のなかで生じてきたのかについて論じた文章に対する受験生の理解力、および独自の発展的な思考力や論理構成力、言語表現力などをみることにある。